

令和2年10月26日

紫波町議会議長 武田平八 殿

紫波町議会すこやか町づくり常任委員会
委員長 根水康博

所管事務調査報告書

本委員会の所管事務について、調査の結果を下記のとおり、会議規則第76条の規定により報告します。

記

1 調査事件

学校再編に係る西の杜小学校整備状況について

2 調査期日及び調査先等

令和2年10月6日（火） 紫波町立上平沢小学校

3 参加者

委員長	根水 康博	委員	阿部 美佳子
副委員長	熊谷 育子	委員	戸塚 美穂
委員	及川 ひとみ	委員	北條 聡
委員	細川 久	委員	浅沼 有朋
事務局	中上 博樹		

4 出席者

上平沢小学校	校長	和田 敦子		
紫波町教育委員会	教育長	侘美 淳	学校教育課長	山村 淳
	教育部長	八重嶋 靖	学務室長	沼田 信一
	学務課長	葛 博之	学務技査	畠山 肇
紫波町建設部	建設部長	中田 秀男	技師	浅沼 成

5 調査結果

別紙のとおり

【現地調査先】 紫波町立上平沢小学校

1 沿革の概要等

昭和31年	紫波町立上平沢小学校と改称 優良学校林として国土緑化推進委員会表彰受賞
昭和32年	新校舎完成
昭和49年	創立100周年記念式典挙行
昭和62年	学校林に赤松300本植樹
平成 4年	プールの全面改修
平成15年	新校舎完成 上平沢小学校PTA 東北PTA表彰受賞

2 児童数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	あおぞら1	あおぞら2	計
男	7	12	4	6	4	5	0	1	39
女	3	4	8	10	4	4	1	0	33
計	10	15	8	14	14	9	1	1	72

3 調査結果の要旨

《学校教育目標》

「自信 勇気 希望をもって 未来にはばたく子どもの育成」

《めざす子ども像》

「かしこい子ども」 すすんで学び、深く考え、自分の言葉で表現し、確かな力をつける子

「やさしい子ども」 人とかかわりながら、思いやりをもって仲良く生活できる子

「たくましい子ども」 心身ともに健康で、ねばり強く最後までやりとげることができる子

《経営の重点と主な具体策》

1. 確かな学力の定着…かかわり合いを重点にした授業改善・読書習慣の形成
2. 豊かな心と態度の育成…あいさつや返事・自分の思いを相手に伝えられる児童の育成
3. 健やかな心身の育成と体力・運動能力の向上…児童会活動や清掃活動での責任と自覚
4. 地域素材や人材を活用した体験的・探求的な学習の充実…人とかかわり
5. 保護者や地域に信頼される教育の推進…安心安全な環境づくり
6. 紫波町学校再編計画に伴う閉校と開校の諸準備…児童・保護者・地域の思いを大事に
7. 働き方改革の実現…よりよい働き方を目指す

《めざす学校像》

- ・子どもの命と人権、社会的規範を守る学校（信頼）
- ・今日が充実し、明日が期待され、開かれた学校（魅力）
- ・個人と集団が伸び、よい授業を目指し、学力の向上に励む学校（責任）
- ・力を合わせ、秩序と感動を共有できる学校（協力）
- ・さわやかなあいさつが交わされ、明るい歌声が響き合う学校（校風）
- ・学校環境が常に清潔で美しく、掲示物が整った学校（環境）
- ・木の香りとぬくもりを大切にする学校（誇り）

4 紫波町立上平沢小学校改修工事（西の杜小学校）の概要

《工事内容》

- ・多目的ホールを3教室化（間仕切り設置、ロッカー・黒板等の設置）
- ・児童昇降口の改修（靴箱移設並びに増設）
- ・電気設備工事（照明器具移設、エアコン設置に伴う電気配線、LAN配線等）
- ・機械設備工事（エアコン設置、パネルヒーター移設等）

※工事期間は令和2年7月から令和2年10月

5 質疑応答

問 4月からの先生方の指導体制はどのようになるのか。

答 教員の配置は学級数により定められている。9学級の見込みであるため10人から11人位が見込まれる。また、統合から数年は統合加配がある。

問 児童に対し閉校の意識付けの連携はどのように行われているのか。

答 行事を通し「最後の・・・」として取り組むことで意識付けとなっている。

また、3校の児童が上平沢小学校において学年毎の交流学习を行い、昨年度は全学年の交流学习を行うことができた。本年度は11月に計画をしている。

問 多くの学校で取り組んでいる伝統芸能の継承に対し、どのような考えか。

答 現在は基本的には教材として扱わない方針である。今後は、公民館や地域で伝統を継承していくこととなる。しかし、今後、カリキュラムとして有効であると考えられる場合は取り入れていく可能性もある。

問 今後の学校経営はどのようになるのか。

答 学校評議員は今後なくなり、保護者、地域の代表により構成されるコミュニティスクールにより学校を支援していくこととなる。

問 通学に関してはどのようなになるのか。

答 中学生は現在と同様に自転車、徒歩による通学となる。小学生は、2km上の児童がスクールバスを利用することとなり水分線2路線、片寄線2路線で運行される。初めてのことなので、運行しながら改善していく。

問 今後考えられる課題は。

答 吉里吉里交流に関しては、これからは公民館が主体となり、ひとつの活動として希望者が参加できるようにしていく案がでていいる。伝統ある行事に関しては、そのような形になっていくことになると考える。

また、それぞれの学校の細かい違いについては、新たなものを作っていかなければならないと考えている。

問 教室と職員室の連絡手段、不審者への対応はどのようなになっているか。

答 各教室に職員室と連絡できる電話が設置されている。不審者対策としては、児童が登校後は正面玄関を閉めている。

6 所感

上平沢小学校は町産材で建築されており、木のぬくもりが感じられ、広い廊下、高い天井と開放感のある造りとなっている。

多目的ホールを改修して作られた3教室は十分な広さが確保され、校舎との一体感があるものであった。

教室が出来上がっていく経過を見ていた上平沢小学校の児童は、新しい学校に対し期待を感じていたに違いない。また、来年度の統合に向け、3校の子ども達の交流学习が行われており、お互いを知ることができる良い機会となっている。11月に予定されている交流学习では、完成された教室を見ることにより、水分小学校、片寄小学校の児童も統合をより実感するであろう。

統合に対し、不安を抱える保護者もまだいると思われる。保護者の不安を解消し、統合が子ども達にとってより良いものとなるためにも、今後は開校準備委員会を中心に、ソフト面の充実を図っていく事がより重要と考える。

統合、小中一貫校は、初めての取組となるため、今後も様々な課題が出てくるのが想定される。開校後も都度対処しながら、子ども達にとってより良い選択をしていくことを優先し、議会としても経過を注視していかなければならない。